

まほろん

通信

Shirakawa since 2007



- 菊池徹夫館長 退任のご挨拶
「まほろんの11年をふりかえって」
- 令和4年度収蔵資料展「U-15の^{アンダー}考古学」担当者インタビュー
「これから歴史の学習を始めるこどもたちあつまれー!」
- シリーズ まほろんおしごと紹介 Part1 学芸員
- オススメ!夏の体験活動室メニューのご紹介

まほろんでは新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に取り組んでいます。
特に体験活動については、職員との接触や近距離での活動を控えております。
ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。



まほろんの11年をふりかえって

館長 菊池 徹夫



昨年10月16日、皆さまのお力で開館20周年記念式典を無事終えることができ、私はこの6月27日をもって館長の職を引かせて頂くこととなりました。この11年間、本当にありがとうございました。

私は、初代館長の藤本強さんの後任として、東日本大震災直後の2011(平成23年)年4月に着任しました。じつはその1月ごろ委嘱のお話があり、お受けしようと思ってはいましたが、あの3月11日午後の大震災でもその気持ちは揺れず、むしろ固まりました。他ならぬ藤本さんのご遺志と、私の父が四倉の出だったというご縁もありました。

当初、上野からの新幹線で見える家々の屋根はブルーシートばかり目につき、白河の町の通りには、子供たちはもちろん、ほとんど人々の姿を見ませんでした。まほろんもしばらくは休館です。

やがて1年、2年と経つうちに、まほろんにも再び子供たちの歓声が聞こえるようになり、「心の復興」をモットーに被災前以上に子供たちの喜ぶ各種の企画を用意し、職員一同、来館者をお迎えすべく努めました。まほろん本来の業務のほかに被災文化財の救出にも関わり、応急保存、整理の任務も引き受けることとなって施設内に仮保管施設も設置されました。かくて職員の皆さんに大変なご苦勞をおかけしつつ、まほろんは活動再開となりました。

ところが2020年、今度は「コロナ」のパンデミックです。ことに福島は震災からの復興途上で原発事故を抱え、文字どおり3重苦に喘ぐこととなりました。

しかし、このところコロナの勢いもようやく衰えてきたかに見えます。このまま退散してくれることを心から祈っています。

館長講演でも何度かお話しした北日本の縄文遺跡群の世界遺産登録も昨年夏に登録を果たし、聴講の皆さんに喜んでいただきました。ここ福島でも、法正尻遺跡、前田遺跡、天王山遺跡など重要な文化財がこれからも大切に保存・活用され、まほろんで、その体制の整備支援や、未来の担い手たる子供たちへの体験学習、教育普及活動が盛んになされていくことでしょう。資料の収蔵保全環境や展示方法の向上、情報発信機能の強化等も期待されます。

先日、福島市と白河市で「最終講演」をさせて頂きました。蝦夷論という少し硬い話で恐縮でした。館長講演では『はじめての考古学』に書いたような、もっと子供向けの話もしたかったというのが今になっての偽らざる思いです。

そんなわけで、私は大震災で着任し疫病の大流行と共に去ることになりますが、こんな災害は、もう二度と来ないように願うばかりです。

幸い、後任をお引き受けくださった石川日出志先生は私の最も敬愛する研究者仲間の一人で、よき呑み友達でもあります。ご活躍を期待し、新館長のもと、まほろんの一層の発展と、皆さまのご多幸・ご健康、それに白河市、福島県の繁栄を願って、お別れとお礼の言葉とさせて頂きます。

菊池徹夫



丸木舟に初めて斧入れする様子

今後のスケジュール

～9/25(日)開催中!

企画展 令和4年度収蔵資料展「U-15の考古学」

7/23(土) 子ども考古学教室 1-土器を学ぼう

7/30(土)・31(日) U-15 実技講座「土器をつくろう」

8/6(土) 子ども考古学教室 2-石器を学ぼう

8/20(土) 館長講演会(石川日出志 新館長)

9/4(日) まほろん森の塾(3回目)

9/10(土)・11(日) U-15 実技講座「土偶をつくろう」(8/9～受付開始)

9/25(日) 館長講演会

10/22(土)～12/4(日) 企画展「ふくしまの上古刀」

10/23(日) まほろん森の塾(4回目)

10/29(土) ふくしまの上古刀 関連講演会 1

※各講座・講演会は事前申込制です。

※新型コロナウイルス感染拡大状況等により予定が変更となる場合があります。詳しくはお問い合わせ頂くか、まほろんのホームページをご覧ください。





これから歴史の学習を始める子どもたちあつまれー!

河西 久子 (学芸員)

まほろん企画展『U-15の考古学』についてご紹介します。

いきなりですが、企画展のタイトルにもなっている「考古学」という言葉を耳にしたことがありますか?

エジプトのピラミッド!恐竜の化石!そんな漠然としたイメージを持っている方が多いかもしれません。

「考古学」の重要な役割のひとつは、文字を持たなかった大昔の人々の暮らしを明らかにすることです。

歴史の教科書の最初の部分は、考古学からわかったことが書かれています。

この展示では、福島県から出土した教科書に関連する資料で大昔の福島を紹介します。

小・中学生のみなさんに楽しみながら学んでもらえるような仕掛けも盛りだくさんです。



6月14日、展示開幕に先立ち、特別に白河市立白河第五小学校6年生のみなさんをお招きして内覧会を行いました。わかりやすいように、興味を持ってもらえるように一生懸命考えてきましたが、いざ子どもたちを目の前にすると、不安がこみあげてきて緊張してしまいました。でも、展示室での子どもたちの興味津々の眼差しをみたら、そんな不安は吹き飛びました。



一番初めに紹介したのは、^{ばばまえ}楢葉町の馬場前遺跡の竪穴住居跡を題材にしたジオラマです。考古学についてわかりやすく学べるように、
こだわりがたくさんつまった展示品です。

弥生時代コーナーでは、石包丁を目にした子どもたちから、「これはお肉を切ったりする包丁だね!」と声があがりました。惜しい!正しい使い方は展示室のパネルを見てね!



続いては、古墳時代。福島県で一番大きな前方後円墳はなんと、全長127m!運動会で走る100m走より長いんだよ!という、おお〜というどよめきがおこりました。



それから、縄文時代のコーナーでは、土器につく縄目の文様をじっくりと観察しました。



一番の盛り上がりを見せたのは、オプションコーナーにある原寸大の大仏の耳と背比べのパネル!このような遊び心も大切ですね。



子どもたちからは、「もっと知りたいからまた来るね」「福島にも教科書にのっているものと同じような遺跡や遺物があるなんてすごい」「これから始まる歴史の授業がたのしみになった」といううれしい感想を聞くことができました。

みなさんのご来館をお待ちしております!

もちろん、かつて子どもだった大人の方もお待ちしております。



展示室内には私がたくさん隠れています。探してみてください。

表紙の1枚

白河第五小学校の児童さんを対象に開催した「U-15の考古学」内覧会での様子です。学芸員の解説を興味津々の様子で聞きながら、熱心に観察していました。

編集後記

今春から団体利用者数が増え、まほろんに子どもたちの元気な姿が戻ってきました。コロナ前と同様の入館者数にはまだ至っていませんが、コロナ禍の終息と共に少しずつのびのび過ごしていただけるまほろんへ帰帰していくことを願っています。



「まほろん」ではたくさんの方がどんなお仕事をしているか、実際にきいてみようというシリーズじゃ。

まほろんが大好きな小学6年生のロンくんが質問するぞ。今回は学芸員を取りまとめている山元さんに話をきいてみたぞ。



ロンくん (小6)
白河市に住む、まほろんと歴史が大好き。

取材先： 山元 出 (主幹)
質問者：ロンくん 小学6年生

Q1 学芸員って何ですか？

A. 博物館で専門的な仕事をする人を学芸員と言います。

Q2 どんなお仕事をしていますか？

A. まほろんでは、福島県内の遺跡で見つかった土器や石器などの資料を保管しています。学芸員は、収蔵庫にある資料を管理したり、みんながわかるように解説を加えて展示したり、保管している資料にちなんだ体験活動の内容を考えたりしています。展示の内容をよく知ってもらうために講演会や講座なども開催します。こうしたことをやるための準備として、色々調べものをしたり、事務手続きをしたりもしなければなりません。また、宣伝のためのポスターづくりなんかもしてます。

Q3 学芸員になるにはどんな勉強をしたらいいですか？

A. ずっと興味を持って学べるものを一つつくっておくといいのではないのでしょうか。さらに、それ以外にも学校での勉強も含めて色々なことを幅広く学んでおいた方が、学芸員として働くときに役立つと思います。



こんなにいます、まほろん学芸員。遺跡発掘調査をしていた職員もいるよ！
質問などありましたら是非お声がけください。

Q4 学芸員の楽しいところ、大変なところを教えてください。

A. 今やらなければならない仕事と数か月後の行事の準備など色々な仕事を同時に進めていかなければならないのが大変です。でも、学芸員は自分が面白いと思うテーマやポイントを伝えようと、展示などの企画をしていますので、それをお客様も同じように興味を持って面白がってもらえることが、学芸員の楽しみだと思います。

Q5 まほろんの好きなところ、おすすめポイントを教えてください。

A. まほろんには、建物や古墳、昔のくらしの様子などが復元展示されています。こうした展示を見て感じたことをヒントに昔の人々について思いをはせてもらいたいですね。一緒に来た人と語り合ってもらってもいいですね。



今回は
まほろんの「なんでも屋さん」、
まほろんになくてはならない
「総務」のおしごと紹介じゃ。

「なんでも屋さん」？
どんなおしごとだろう？
楽しみです！



オススメ！ 夏の体験活動室 メニューのご紹介

もうすぐ夏休み！そして秋！
まほろん体験室のおすすめ
メニューを紹介します。
佐藤 璃子 (学芸員)

★ぬりえはじめました★

常設展示室のぬりえを月替わりで
配布しています！

★体験活動室スタンプカード はじめました★

カードは月に1回押せます。
対象となるメニューは月替わりの
有料メニューのみです。



★夏の限定メニュー★

- ・けつ状耳飾りづくり
(8月2日～ 先着120個)
- ・七夕短冊づくり
(7月30日～8月7日)

7月

『墨流しうちわづくり』
平安時代から伝わる、模
様を写し取る方法です。

お持ち帰りメニュー
『土器サンバイザーづくり』



うちわ イメージ

8月

『土偶のおかおブローチづくり』
企画展『U-15の考古学』と
連動メニュー！



ブローチ イメージ

9月

『土版づくり』(仮)
絶賛準備中！

まほろん
通信
vol. 84

令和4年7月13日発行

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)
休館日 月曜日(祝日・休日の場合を除く) / 国民の祝
日の翌日(7/19・9/20・10/11) / 年末年始(12/28
～1/4)
入館料 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場
合があります。)

お問い合わせ

まほろん
福島県文化財センター・白河館

〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86

☎ 0248-21-0700

fax 0248-21-1075

ホームページ

まほろん

検索

